

令和5年度わかやま子ども学総合研究センター公開研究集会申込用紙

＜申込み先＞

メール : kodomogaku@shinai-u.ac.jp

FAX : 073-488-6260 (代表)

＜問合せ先＞

和歌山信愛大学（わかやま子ども学総合研究センター）

TEL : 073-488-6228 (代表)

住所 : 〒640-8022

和歌山市住吉町1番地（和歌山信愛大学）

＜COVID19等、感染症拡大防止対策＞

1) 参加者は各自の判断で感染対策等のご協力をお願いします。

2) 当日、体調不良の方は来場をご遠慮ください。

※メールで申込みの場合は、下記の参加申込書(1)～(6)の内容をご記載ください。

参 加 申 込 書

＜個人情報取扱いについて＞

ご記入いただいた個人情報を、第三者に提供することはありません。

本個人情報は、講演会やセミナーに関するご案内・ご連絡及び本学からの情報提供のためにのみ利用します。

(1) 氏名

(2) 住所または所属

(3) 希望分科会

第1希望 () 第2希望 ()

(4) 電話番号（※当日連絡がつく電話番号を記入してください）

TEL ()

(5) 当日参加のご本人が確認できるメールアドレス（※メールにて申込みの方は記載の必要はありません）

MAIL @

(6) 同伴者 () 名（ご一緒に参加申し込みをされる方）

氏名

住所または所属

希望分科会

第1希望() 第2希望()

氏名

住所または所属

希望分科会

第1希望() 第2希望()

令和5年度 わかやま子ども学総合研究センター 公開研究集会

テーマ

「わかやまの子どもの現状と課題について考える」

～子ども理解に根ざした創造的教育支援の在り方を探る～

■開催日：令和6年3月2日(土) 13:00～16:00 (開場 12:30～)

■会場：和歌山信愛大学 〒640-8022 和歌山市住吉町1番地

■参加対象：子どもに関わる教育、福祉、医療等の従事者、地域での学校運営、子育て支援関係者、保護者等

■申し込み期限：令和6年2月15日(木)まで

■主 催：和歌山信愛大学・和歌山信愛女子短期大学

■共 催：和歌山市こども総合支援センター

■後 援：和歌山県・和歌山市・和歌山県教育委員会・和歌山市教育委員会



※駐車場について
お車でご来学の場合は本町地下駐車場等の
ご利用をお願いします。
(本町公園側の南門からの入場可)

本町地下駐車場代
30分100円 (最初の30分間無料)
最大料金600円 (7時から19時)

<公開研究集会内容>

テーマ 「わかやまの子どもの現状と課題について考える」
～子ども理解に根ざした創造的教育支援の在り方を探る～

	13:00	13:10	14:15	15:20	15:55	16:00
開会	1 基調講演	2.分科会	3.分科会の発表 4.まとめ	閉会		

1. 基調講演

「子ども理解に根ざした創造的教育支援の在り方」

わかやま子ども学総合研究センター長 大橋 功 氏

2. 分科会

各分科会において、参加者からの話題提供や事例発表に基づき、連携した子どもへの支援の在り方を探っていきたいと考えています。

第1分科会「子どもの支援に対する諸機関の連携を考える」

座長：和歌山信愛女子短期大学講師 木村 正徳
助言者：和歌山市立子ども支援センター長 尾崎 有希子 氏

子どもを取り巻く環境や抱える課題が複雑多様化してきている現在において、子どもに対する支援は学校だけでは難しくなってきています。より専門性をもった者及び機関と家庭と学校が連携し、協働していくことが求められています。本分科会では、不登校を主訴とした中学生に対して、専門機関・家庭・学校が連携しながら取り組んだ事例を元に、支援や連携のあり方を探っていきたいと考えています。

参加者の皆様からも、成功した事例や困っている課題等をお出しいただき、共有する中で、地域で子どもを支えるネットワークを広げる機会になることを目指しています。

第2分科会「地域で出来る子育て支援ってなんだろう？」

座長：和歌山信愛女子短期大学講師 桑原 徹也
助言者：和歌山市こども総合支援センター班長 武嶋 直登 氏

こども家庭庁が設立され、子育て支援が注目される現在、子育ては家庭で行うものという概念が大きく変化し、地域で子ども達を育てる時代へと移っています。

本分科会では、和歌山県内で行われている活動やその課題について共有し、今後、地域においてどのような支援が求められるかを参加者の皆様とともに検討します。

第3分科会「“特別支援”の視点からの保育改善

-すべての子どもが学びを深める支援の取り組み-

座長：和歌山信愛大学 准教授 原 康行

助言者：和歌山県教育庁学校教育局義務教育課 企画調整班 指導主事 森脇 志帆 氏

日本保育協会（2016）の調査では、回答保育所全体の9割以上（92.7%）に、いわゆる「気になる子」が在籍し、6割（60.0%）に診断を受けた障害児がいることが示されています。「気になる子」や障害児に対する支援を進める中で、すべての子供がわかりやすく、目一杯活動し学びを深める保育方法とは？ またそれを支える園内研修のあり方、行政バックアップと外部支援の方法について、日高郡みなべ町 の4年間の取り組みを紹介いただき、議論を深めます。

第4分科会「創造性の視点からの保育改善-幼児期の表現活動を通して」

座長：和歌山信愛大学 教授 大橋 功

助言者：木の実幼稚園 園長・大阪教育大学 講師 今川 公平氏

造形表現活動では、子どもを使って保育者のイメージをつくらせるような保育になってしまふことが少なくありません。子どものものの見方や考え方を十分理解しないまま、作品という成果物にばかり目を向けてしまうからです。しかし、「何かが違う」と感じ、「どうすれば、目指すべき子どもの姿と出会うことができるのか」と、自らの保育を子どもの側から見直し、改善しようと試行錯誤する先生もおられます。自らの保育を、創造的に改善していくことに挑戦する幼稚園教諭の奮闘から、みなさんと共に「創造的な保育改善のありかた」を考える機会にできればと願っています。

3. 分科会の内容共有

4. まとめ

わかやま子ども学総合研究センター長 大橋 功

